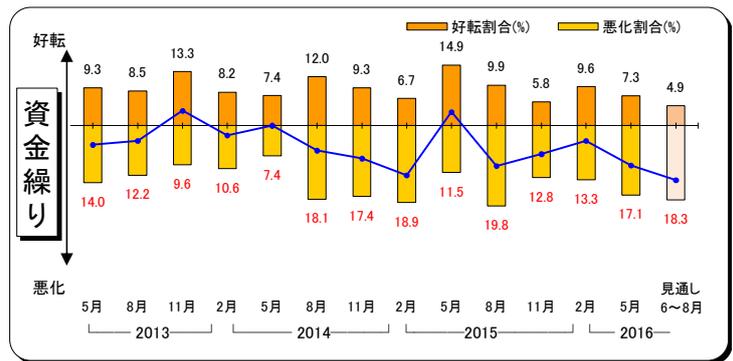
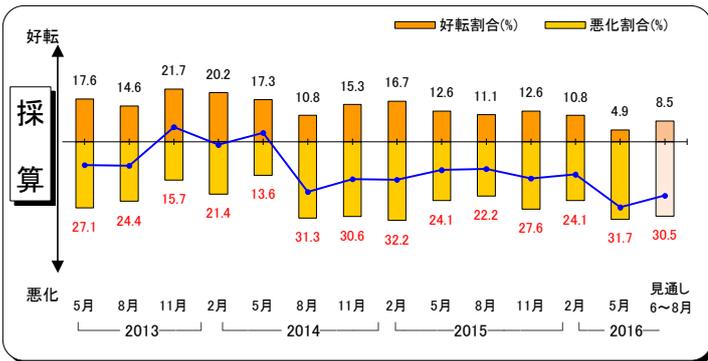
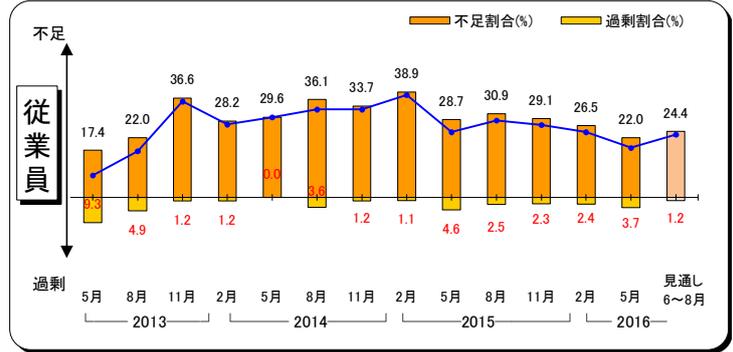
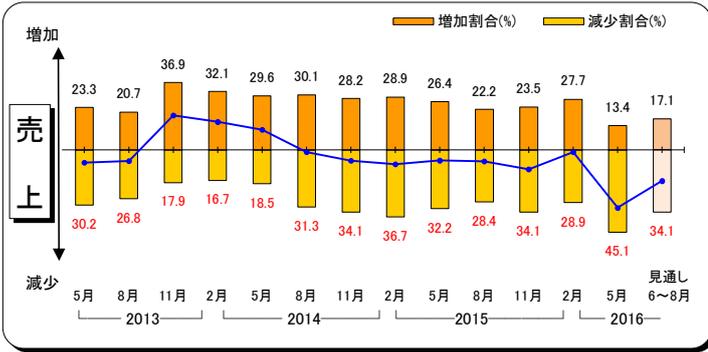
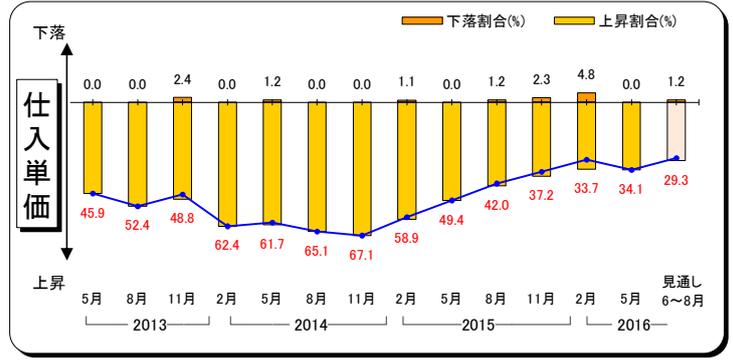
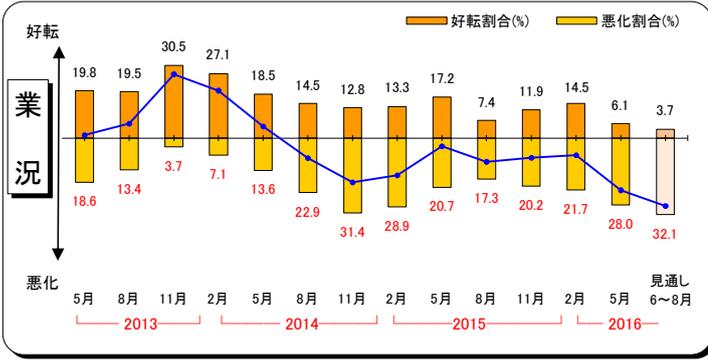


【建設業】①



【建設業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

土木建築工事業	仕事が減少してきた。
土木建築工事業	いつまで会社が存続できるか心配です。
土木建築工事業	“地域草の根主義”「まちの水道や」を堅持しつつ、上下水道土木工事（公共事業中心）へ事業拡張を目指します。インフラ老朽化、自然災害への当業界事業者の対応として、先行きは厳しいと見えます。
造園工事業	職安、民間の求人募集に反応が全く見られない。
建築リフォーム工事業	先行きの不透明感が増している。業況の不変は、低位置での不変であり、決して良い状況にはない。果たして安定した好況が期待できる時が来るのか分かりません。根本にあるのは、中長期的展望が無さすぎる事かと。あまりにも小手先の対応に終始している嫌いがある。
とび工事業	従業員不足の為、外注費が増加し業況が悪化している。
とび工事業	今年に入り、発注工事が減少し、そのまま現在に至る。 6月以降の工事はある程度受注はあるものの、全体の単価が下がり、その上、仕入単価が上がっている状況で、資金繰りが厳しい状況である。今後の先行きが見えない。
電気工事業	燃料価格は安くなっているが、工具等が値上がりしており、全体として仕入価格が増大している。
電気工事業	海外展開に興味はあるが、売り出す自社の商品・サービスの判断が付かず、進出地域の検討に至っていない。
電気通信工事業	建設業従事者の新規雇用について大変難しい状況にある。 元請からの労務賃金の圧縮が止まらず従事者が離脱している。 社会保険加入について協力会社で進まない状態にある。
管工事業	ゼネコンは軒並み増収増益だが、サブコンはまだその域ではない。前期に比べ、利益はやや上昇したが、選別受注をしているからで、環境が好転しているわけでもない。物流施設を中心に千葉県内で建設市場がやや賑わってきてはいるが、依然として利益環境は低調である。
管工事業	例年に比べて、業況は良いのでは？
管工事業	仕事に繁閑があり、人手が不足したり、過剰になったりする。 コンスタントに仕事があれば、雇用を定めることが出来る。 材料等の仕入及び経費の上昇により採算はなかなか好転していない。 中小企業に単価が増額出来れば資金繰りも良くなる。
冷暖房設備工事業	例年5月大型連休は多忙であったが、今年はしっかり休めた。 売上は減少したが、社員の為にも良かった。この先好転の兆し有り、期待している。